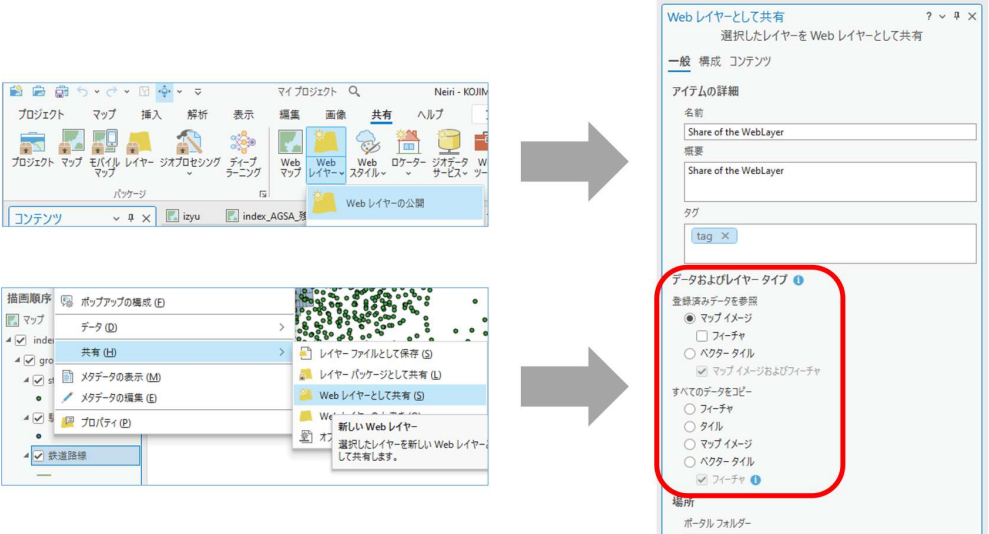


ArcGIS Pro から Portal ポータルサイトに公開できるレイヤー タイプとその格納先

データおよびレイヤータイプ (ツールの選択項目) (※1)	レイヤー (※2) タイプ (ツールの選択項目)	種類/名称	レイヤー タイプ (※4) (ポータルサイト上での表記)	レイヤーのアイテムの格納先	サービス (※3) の格納先	サービスのデータ格納先 (ArcGIS Server が参照している場所)
登録済みデータを参照 (※6)	マップイメージ + フィーチャ (選択任意)	マップ イメージ レイヤー	Map Image Layer	ポータル サイトのコンテンツ C:\arcgisportal\content\items	レイヤーの実態はサービス。 そのサービスを管理しているのは ArcGIS Server C:\arcgisserver\directories\arcgissystem\arcgisinput	データストア (RDBMS 等) (※9)
		フィーチャ レイヤー	Feature layer			ArcGIS Data Store (※8)
	ベクタータイル + マップイメージおよびフィーチャ (選択必須、3点あわせて公開)	ベクター タイル レイヤー	Tile layer (ホスト) (※5)			データストア (RDBMS 等) (※9)
		マップ イメージ レイヤー	Map Image Layer			ArcGIS Data Store
すべてのデータをコピー (※7)	フィーチャ	ホスト フィーチャ レイヤー	Feature layer (ホスト)			C:\arcgisserver\directories\arcgissystem\arcgisinput (※10)
		タイル	Tile layer (ホスト) (※5)			ArcGIS Data Store
	マップイメージ	マップ イメージ レイヤー	Map Image Layer			
		ベクター タイル	Tile layer (ホスト) (※5)			
	フィーチャ (選択任意)	ベクター タイル レイヤー	Tile layer (ホスト) (※5)			
		ホスト フィーチャ レイヤー	Feature layer (ホスト)			

※1 データおよびレイヤータイプ



※2 レイヤー

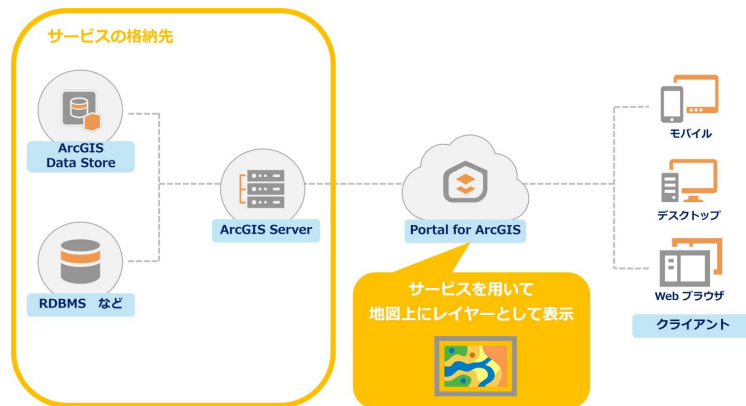
- ・サービス（マップサービスやフィーチャサービス など）を、ポータル サイト上のマップやアプリで使用するために、マップやアプリに追加したもの。
- ・ArcGIS Server と Portal for ArcGIS の連携（フェデレート・ホスティングサーバーの登録）した、Portal for ArcGIS ポータルサイト上のマップやアプリ上で表示される「レイヤー」は、ArcGIS Server や ArcGIS Data Store、データベース（RDBMS・FGDB など）に格納されている、「サービス（レイヤーの実態）」を用いて、地図上に表示されたもの。

フェデレート [サーバーの構成—Portal for ArcGIS | ArcGIS Enterprise のドキュメント](#)

ホスティングサーバーの登録 [ホスティングサーバーの構成—Portal for ArcGIS | ArcGIS Enterprise のドキュメント](#)

RDBMS [エンタープライズ ジオデータベースと ArcGIS Enterprise—ArcGIS Server | ArcGIS Enterprise のドキュメント](#)

FGDB [ファイルジオデータベース—ArcGIS Pro | ドキュメント](#)



※3 サービス

- ・ArcGIS Server のサービス。マップサービス（地図を配信する機能）やフィーチャサービス（地図を配信する機能＋編集機能）など配信する機能。

※4 レイヤー タイプ

- ・右図の赤枠の箇所から、レイヤータイプを確認可。



※5

- ・ポータルサイト上での、ベクター タイル レイヤーとホスト タイル レイヤーにおけるレイヤー タイプの表記は、両方「Tile layer (Host)」となるが、アイコンが異なる。

ホスト タイル レイヤー



ベクター タイル レイヤー



※6 [登録済データを参照] で公開した場合

- ・ポータルサイトへの公開後に、ArcGIS Pro 上で行ったリソースの変更が、公開したレイヤーやサービスに即座に反映される。

※7 [すべてのデータをコピー] で公開した場合

- ・ポータルサイトへの公開後に、ArcGIS Pro 上で行ったリソースの変更が、公開したレイヤーやサービスに反映されることが基本的におきない。

※8

- ・通常、[登録済データを参照] を選択して公開した場合の「サービスのデータ格納先」は、データストア（RDBMS 等）。
- ・[登録済データを参照] と [すべてのデータをコピー] のどちらを選択しても、「サービスのデータ格納先」は、ArcGIS Data Store になる仕様。
→ベクタータイルレイヤーは、ArcGIS Server と Portal for ArcGIS の連携（フェデレーション・ホスティング）を行った、ポータルサイト上ではじめて、利用することができるレイヤー。
→ベクタータイルレイヤーは、レイヤーの中でも比較的最近登場したレイヤーであるため、他のレイヤーと仕様が異なる。
- ・RDBMS に格納していたレイヤーを、ベクタータイルレイヤーとして、公開（登録済データを参照）しても、ArcGIS Pro 上で行ったリソースの変更が、公開したレイヤーやサービスに反映されない仕様。

※9 RDBMS

格納先の選定

- ・エンタープライズ ジオデータベース
- ・マップ イメージ レイヤーのみ参照して公開したい場合、リソースのデータが、RDBMS 以外のファイル ジオデータベースやローカルフォルダに格納されている状態でも、ポータル サイトへ公開できる。

※10

- ・[すべてのデータをコピー] を選択して、「ホスト レイヤー」として公開した場合の「サービスのデータ格納先」は、ArcGIS Data Store。
- ・[Web レイヤーとして共有] という機能で選択できる「マップ イメージ レイヤー」は、「ホスト レイヤー」に属している「ホスト マップ イメージ レイヤー」として公開されない。

[ホスト Web レイヤーの Web フィーチャレイヤーからの公開—ArcGIS Pro | ドキュメント](#)

- ・「ホスト」がつかない「マップ イメージ レイヤー」として公開されるので、「サービスのデータ格納先」は、ArcGIS Data Store ではない。